

「球磨の流れ」

文三甲一 上 野 裕 久

球磨川の水は青みて相良城の秋の姿を明るく映せり

矢のごとく日は過ぎゆきて大學の入試の掲示多くなりくる

そびえ立つ高千穂の峯とりまける雲をい裂きて夕陽射しをり

何萬の歳をけみしてかくは深き石灰岩の浸蝕の跡（槍御し）